

## 東北関東大震災(東日本大震災)のさなかで

去る3月11日に、観測史上最大の強烈な揺れが日本列島を襲いました。そして15mをこす巨大な水の壁が宮城県を中心に太平洋岸に押し寄せ、家屋を呑み込み、廃材と化して次の住宅街に襲いかかり、町を廃墟にしていきました。津波が引いた後の瓦礫の山々。三階建てビルの屋上に横たわる大きなバスの残骸。一体どこから手をつけて片付けたらよいのでしょうか。

多くの方が全てを失いました。死者、行方不明者が約3万人、避難所に約25万人。せめて避難所の生活環境が一刻も早く改善され、十分な援助の手がいきわたって欲しいものです。安否の分からない肉親を必死に探し回って居られる方々のやつれた姿に胸が痛みます。まずは救援募金に精一杯の協力をいたしましょう。昨日100万円の募金が中国の教会から寄せられました。

それにしても日本列島そのものが、海底でプレート(岩盤)が重なり合い断層が走る、実に不安定な地層の上に乗っているものなのですね。かつて物理学者寺田寅彦が日本列島を「つり橋の上に乗って揺れている」とたとえて、警鐘を鳴らしたそうです。果たして私たちはこのような危ない日本列島を自覚した上で、巨大なビルや工場、またタワーやマンションを建てて生活しているのでしょうか。

日本の科学技術の粋を集めた原子力発電所が、現代社会に欠かせないクリーンな電力を供給しています。ところがこの大地震と津波で原発は電気系統が故障し、原子炉の制御がきかなくなりました。爆発を繰り返して、今度は放射能汚染の危険で住民8万人が避難を余儀なくされました。更に農産物や農地の放射能汚染から、農家に深刻な打撃が広がろうとしています。

私たちが築き上げてきた文化の脆さと、天変地異に襲われるとこのように日常生活が一変させられてしまう世界に生きていることを、私たちは忘れかけていたのではないのでしょうか。命のはかなさ、また突然起こる天変地異を、これが自然本来の姿だと受容れ、諦観に立とうと言う人もいます。しかし私は、神が天地万物を創造されたという信仰に立ちます。全知全能の神が創造されたのですから、天地万物は全くよいものであったはずで、それがどうしてこのように恐ろしい天変地異が起る世界になってしまったのでしょうか。そこで私はこの大災害に、私たちへの神の警鐘を聞き取ろうといたします。

人間は科学技術において長足に進歩して来ました。地球を破壊する水爆さえも発明しました。しかし天変地異を治めることが出来ないのです。それどころか強力な武器を作っては、殺し合う戦争を繰り返すのです。温暖化現象で環境破壊を進めています。文化の発達で、私たちは世界を良くしていくのではなく、破滅させていく道をたどっているのではないのでしょうか。私たち人間は、神が非常に良いものとして創造されたこの世界の管理を委ねられたと、その責任を自覚する時、この大災害を前にして私たちは、神から能力を与えられた人間が自分の思うままに生きてきた結果ではないかという神の警鐘として聞きとる思いに、導かれるのではないのでしょうか。

良い世界は、与えられたどの命をも限りなくとおしみ合う優しさによって保たれています。家族の幸せも和気あいあいとした食卓が原点です。ところがその家族でも争うのです。愛し合って生きるように創られた人間が、どうしてその愛を失い、憎しみを抱くようになったのでしょうか。創造主の心を大切に守ろうと、常に心がけなかったからではないのでしょうか。

そこで神はイエス・キリストをこの世界に送り、真の愛を十字架をもって示されました。それは人のために身を低くして命を与えていく愛です。自分を愛する愛と同じ愛をもって互いに愛し合おうとする時に、私たちも我欲を克服して共存共栄の社会を創ることができるからです。そうすれば天地万物が、初めに神によって創造された完全に良い姿を取り戻すでしょう。

聖書は、イエス・キリストが再び来られて、新しい天と地をもたらして下さると、終わりの日の究極の祝福を約束しています。一切が瓦礫と化した災害のさ中からでも、輝く天地に生きる祝福を目指して、そこで生きるに相応しい者になるよう、我が身を整えて生きていきたいものです。この世界を滅びへと向かわせる悪を、自他共々の内から取り除いていきたいものです。

“見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する  
代々とこしえに喜び楽しみ、喜び踊れ”

聖書